

正岡子規

夏目漱石

青空文庫

正岡の食意地の張った話か。ハ、ハ、ハ。そうだなあ。なんでも僕が松山に居た時分、子規は支那から帰って来て僕のところへ遣^やつて来た。自分のうちへ行くのかと思つたら、自分のうちへも行かず親族のうちへも行かず、此^{ここ}処に居るのだという。僕が承知もしないうちに、当人一人で極^きめて居る。御承知の通り僕は上野の裏座敷を借りて居たので、二階と下、合せて四間あつた。上野の人が頻^{しき}りに止める。正岡さんは肺病だそうだから伝染するといけないおよしなさいと頻りにいう。僕も多少気味が悪かつた。けれども断わらんでもいいと、かまわずに置く。僕は二階に居る、大将は下に居る。其うち松山中の俳句を遣^やる門下生が集まつて来る。僕が学校から帰つて見ると、毎日のように多勢来て居る。僕は本を読む事もどうすることも出来ん。尤^{もつと}も当時はあまり本を読む方でも無かつたが、兎^とに角^{かく}自分の時間というものが無いのだから、止むを得ず俳句を作つた。其から大将は昼になると蒲^{かば}焼^{やき}を取り寄せて、御承知の通りぴちやぴちやと音をさせて食う。それも相談も無く自分で勝手に命じて勝手に食う。まだ他の御馳走^{ごちそう}も取寄せて食つたようであつたが、僕は蒲焼の事を一番よく覚えて居る。それから東京へ帰る時分に、君払^くつて呉^くれ玉えといつて澄まして帰つて行つた。僕もこれには驚いた。其上まだ金を貸せという。何でも十円かそ

こら持つて行つたと覺えている。それから歸りに奈良へ寄つて其処そこから手紙をよこして、恩借きんすの金子は当地おいに於て正に遣つかい果はたし候とか何とか書いていた。恐らく一晩で遣つてしまつたものであろう。

併しかし其前は始しじゆ終ちゆう僕の方が御馳走ごちそうになつたものだ。其うち覺えている事を一つ二つ話さうか。正岡という男は一向学校へ出なかつた男だ。それからノートを借りて写すような手数をする男でも無かつた。そこで試験前になると僕に来て呉れという。僕が行つてノートを大略話してやる。彼奴あいつの事だからええ加減に聞いて、ろくに分つていない癖くせに、よしよし分つたなどと言つて生吞込なまのみこみにしてしまう。其時分は常盤会とぎわかい寄宿舎に居たものだから、時刻になると食堂で飯を食う。或時又来て呉れという。僕が其時返辞をして、行つてもええけれど又鮭さけで飯を食わせるから厭いやだといった。其時は大に御馳走ごちそうをした。鮭を止めて近処の西洋料理屋か何かへ連れて行つた。

或日突然手紙をよこし、大宮の公園の中の万松庵に居るからすぐ来いという。行つた。ところがなかなか綺麗きれいなうちで、大将奥座敷に陣取つて威張つている。そうして其処そこで鶉うずらか何かの焼いたのなどを食わせた。僕は其形勢を見て、正岡は金がある男と思つていた。処が實際はそうでは無かつた。身代を皆食いつぶしていたのだ。其後熊本に居る時分、東

京へ出て来た時、神田川へ飄亭ひょうていと三人で行った事もあった。これはまだ正岡の足の立っていた時分だ。

正岡の食意地の張った話というのは、もうこれ位ほか思い出せぬ。あの駒込追分奥井の邸内に居った時分は、一軒別棟べつむねの家を借りていたので、下宿から飯を取寄せて食っていた。あの時分は『月の都』という小説を書いていて、大に得意で見せる。其時分は冬だった。大将雪隠せつちんへ這入るのに火鉢ひばちを持って這入る。雪隠へ火鉢を持って行つたとて当る事が出来ないじゃないかという、いや当り前にするときん隠しが邪魔になつていかぬから、後ろ向きになつて前に火鉢を置いて当るのじやという。それで其火鉢で牛肉をじやあじやあ煮て食うのだからたまらない。それから其『月の都』を露伴に見せたら、眉山びざん、漣さざなみの比で無いと露伴もいつたとか言つて、自分も非常にえらいもののようにいうものだから、其時分何も分らなかつた僕も、えらいもののように思つていた。あの時分から正岡には何時いつもごまかされていた。発句も近来漸ようやく悟つたとかいつて、もう恐ろしい者は無いように言つていた。相変らず僕は何も分らないのだから、小説同様えらいのだろうと思つていた。それから頻しきりに僕に発句を作れと強しいる。其家の向うに笹藪ささやぶがある。あれを句にするのだ、ええかとか何とかいう。こちらは何時いつもいわぬに、向うで極きめている。まあ子分のよ

うに人を扱うのだなあ。

又正岡はそれより前漢詩を遣つていた。それから一六風か何かの書体を書いていた。其頃僕も詩や漢文を遣つていたので、大に彼のいっさん一祭を博した。僕が彼に知られたのはこれが初めてであつた。或時僕が房州に行つた時の紀行文を漢文で書いて其中に下らない詩などを入れて置いた、それを見せた事がある。処が大將頼みもしないのにばつ跋を書いてよこした。何でも其中に、英書を読む者は漢籍が出来ず、漢籍の出来るものは英書は読めん、我兄の如きは千万人中の一人なりとか何とか書いて居つた。処が其大將の漢文たるやはなは甚だまじいもので、新聞の論説の仮名を抜いた様なものであつた。けれども詩になると彼は僕よりも沢山作つて居り平ひょうそく仄たくさんも沢山知つて居る。僕のは整わんが、彼のは整つて居る。漢文は僕の方に自信があつたが、詩は彼の方が旨うまかつた。尤も今もつとから見たらまずい詩ではあろうが、先まず其時分の程度で纏まとつたものを作つて居つたらしい。たしか内藤さんと一緒に始しじゆう終ゆうやつて居たかと聞いている。

彼は僕などより早熟で、いやに哲学などを振り廻すものだから、僕などは恐れを為なしていた。僕はそういう方に少しも発達せず、まるでわからん処へ持つて来て、彼はハルトマンの哲学書か何かを持ち込み、大分振り廻して居た。尤も厚もつとい独逸書ドイツしょで、外国にいる加

藤恒忠氏に送つて貰つたもので、ろくに読めもせぬものを頻りにひっくりかえしていた。幼稚な正岡が其を振り廻すのに恐れを為していた程、こちらは愈々《いよいよ》幼稚なものであつた。

妙に気位の高かつた男で、僕なども一緒に矢張り気位の高い仲間であつた。ところが今から考えると、両方共それ程えらいものでも無かつた。といつて徒らに吹き飛ばすわけは無かつた。当人は事實をいつているので、事實えらいと思つていたので。教員などは滅茶苦茶であつた。同級生なども滅茶苦茶であつた。

非常に好き嫌いのあつた人で、滅多に人と交際などはしなかつた。僕だけどういふものが交際した。一つは僕の方がええ加減に合はして居つたので、それも苦痛なら止めたのだ。が、苦痛でもなかつたから、まあ出来ていた。こちらが無暗に自分を立てようとしたら迎も円滑な交際の出来る男ではなかつた。例えば発句などを作れという。それを頭からけなしちやいかない。けなしつつ作ればよいのだ。策略でするわけでも無いのだが、自然とそうなるのであつた。つまり僕の方が人が善かつたのだな。今正岡が元気でいたら、余程二人の關係は違ふと思う。尤も其他、半分は性質が似たところもあつたし、又半分は趣味の合つていた処もあつたろう。も一つは向うの我とこちらの我とが無茶苦茶に衝突も

しなかつたのもあろう。忘れていたが、彼と僕と交際し始めたも一つの原因は、二人で寄席よせの話をした時、先生も大に寄席通を以て任じて居る。ところが僕も寄席の事を知っていたので、話すに足るとでも思つたのであろう。それから大に近よつて来た。

彼は僕には大抵な事は話したようだ。(其例一二省はぶく) 兎に角正岡は僕と同じ歳としなんだが僕は正岡ほど熟さなかつた。或部分は万事が弟扱いだった。従つて僕の相手し得ない人の悪い事を平気で遣つていた。すれつからしであつた。(悪い意味でいうのでは無い。)
又彼には政治家的のアムビションがあつた。それで頻りに演説などをもやつた。敢て謹聴するに足る程の能弁でも無いのに、よくのさばり出て遣つた。つまらないから僕等聞いてもないが、先生得意になつてやる。

何でも大将にならなけりや承知しない男であつた。二人で道を歩いていても、きつと自分の思う通りに僕をひっぱり廻したものだ。尤も僕がぐうたらであつて、こちらへ行こうと彼がいうと其通りにして居つた為であつたらう。

一時正岡が易を立ててやるといつて、これも頼みもしないのに占つてくれた。畳一畳位の長さの巻紙に何か書いて来た。何でも僕は教育家になつて何うとかするといふ事が書いてあつて、外ほかに女の事も何か書いてあつた。これは冷かしてあつた。一体正岡は無暗むやみに手

紙をよこした男で、それに対する分量は、こちらからも遣った。今は残っていないが、孰いずれも愚ぐなものであったに相違ない。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚版 夏目漱石全集 10」筑摩書房

1972（昭和47）年1月10日第1刷発行

初出：「ホトトギス」

1908（明治41）年9月1日号

※本作品は、底本中では「談話」の項におさめられている。

入力：Nana ohbe

校正：米田進

2002年5月10日作成

2003年5月25日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

正岡子規

夏目漱石

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>